



《こども版》 としょかんだより No. 319

2月号

# わくわく本だな

富山市立図書館

## 今月のおすすめ



= 1・2年  
= 3・4年  
= 5・6年

—あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします—

### 「おはなしだいどころ」

さいとう しのぶ / 作 PHP 研究所



けんかするしおとこしょう、せいくらべするおたまとフライがえし、にくじゃががコロッケにへんしんしたはなし……。だいどころのちょうみりょうやどうぐ、たべものたちが、にぎやかにおしゃべりしています。みじかくてたのしいおはなしがいっぱい！

### 「まどれーぬちゃんとまほうのおかし」

小川 糸 / 作 小学館

まどれーぬちゃんは、お父さんお母さんとはなれて、ろばあちゃんの家に住んでいます。さびしいけれど、ろばあちゃんから色々なおかし作りを教わっています。ある日、まどれーぬちゃんは、けんかしている両親になかなかおしえてもらいたくて、二人の思い出のおかし、マドレーヌを作ることにしました。



### 「赤ちゃんは魔女」

ビアンカ・ピッツォルノ / 作 徳間書店



ゼップ家にふしぎな赤ちゃんが生まれました。水にういたり、鏡にうつらなかつたり、ほうきにまたがって飛んだりして、まるで魔女みたいです。同じころ、なまけもの若者が、大おじさんのばく大な遺産を相続することになりました。でも、魔女との結婚が条件です。必死に魔女を探し、やがて、ゼップ家に魔女がいることをつきとめます。

# あたらしくほいった本



## えほん

「ライオンのすてきないえ」 西村 敏雄 / 作 学研教育出版

だいくのさるが、もりのひろばにライオンのいえをたてていました。ところが、さるがねむっているあいだにどうぶつたちがやってきて、かってにてつだいはじめます。すきな色をぬったり、ブランコやまどをつくるうちに、とんでもない家ができました。目をさましたさるはおどろいてしまいます。

## ものがたり

「もりのたいしょうははりねずみ」 モーラ・フェレンツ / 作 偕成社

森のたいしょうはじぶんだとおもっていたくまは、「たいしょうははりねずみだ」とキツツキにいわれてびっくり！ おこったくまは、はりねずみのところにたしかめに行きました。かしこいはりねずみは、うまくちえをつかって、くまをおいかえしてしまいます。



「アヤカシ薬局閉店セール」 伊藤 充子 / 作 偕成社

アカシヤ薬局のさくらおばあさんは、お客がこないで薬局を閉店することにしました。すると、店のまねきねこが突然動き出し、閉店セールのチラシを書きました。チラシを配った次の日から、青オニやからすてんぐなど、ふしぎなお客が次々に薬局にやってきます。

## ことばであそぼう！

## ことわざ

ことわざは、むかしから日々のくらしの中で使われてきました。生活の知恵や教訓などをみじかい言葉であらわしています。



【耳にたこができる】・・・同じことをくり返し聞かされること。

【ねこに小判】【ぶたに真珠】・・・どんなに貴重なものでも、その価値が分からなければ役にたたないという意味。

「わざわざことわざ ことわざ事典」(童心社) 「よくわかることわざ」(集英社) より

## ものがたい

### 「犬どろぼう完全計画」

バーバラ・オコーナー / 作 文溪堂



ジョージナは、アパートを追い出されたために、母と弟と3人で車の中で生活しています。母は仕事を二つもかけ持ちして働いていますが、なかなかお金はたまりません。ある日、ジョージナは行方不明の犬を探している張り紙を見つけます。そこで、犬を盗んで謝礼金をもらうことを思いつきました。

### 「見習い魔術師トトの冒険 魔術師の秘密」

立石 彰 / 作 講談社

シャンドラ国では、樹海の魔女や鳥人族から国を守るために魔術師たちが活躍していました。弱虫で戦いがきらいな少年トトは、見習い魔術師になったばかり。樹海の悪霊との戦いを経験したあと、国境で、かつて大魔術師だった祖父のヨーゼフとともに、国を守る仕事につきました。トトはそこで、祖父から、魔術師と魔女たちとの戦いにはかかれた秘密があることを知らされます。



## ちしきの本

### 「やさいむらのなかまたち 冬」

ひろかわ さえこ / 作 偕成社



はずかしがりやのにんじんさん、水もしたたるいいおとこのはくさいくん、いつもぼーっとしているごぼうくんなど、冬のおいしい野菜を楽しい絵で紹介しています。それぞれのルーツや栄養、保存法などものっています。野菜が大好きになる一冊です。

### 「小惑星探査機『はやぶさ』宇宙の旅」

佐藤 真澄 / 作 汐文社

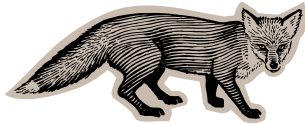
2010年6月、小惑星探査機はやぶさが地球にもどってきたニュースを覚えていますか？ 7年前に打ち上げられてから、小惑星“イトカワ”を調査し、写真や観測データを送り続けたはやぶさですが、燃料漏れや故障など様々なアクシデントがありました。はやぶさが地球に貴重なカプセルを届けるまでの、7年間60億キロメートルの長い旅の物語です。





名作をよもう!

今月の1さつ



「ごんぎつね」 (えほん)

にいみ なんきち / 作 ポプラ社

ひとりぼっちで山にすんでいるごんぎつねのごんは、ときどき、村へおりてきては、いたずらをしていました。ある日、ごんは、ひょうじゅうが川にわなをしかけているのを見て、わざと、かかっていた魚を全部にがしてしまいます。数日後、村へ行って、ひょうじゅうの母親が死んだことを知ったごんは、ひょうじゅうが病気の母親にうなぎを食べさせてやりたかったのだと気づきます。ごんは、自分と同じひとりぼっちになったひょうじゅうのために、ぬすんだ魚や、山でひろったくりやきのこを、家にこっそり届けにいきました。



とやまし あ・れ・こ・れ

富山のくすり

富山のくすりは、江戸時代に腹痛をおこした殿様が富山のくすりをのんですぐに治ったことから、全国に知れわたったと言われています。

“富山の薬売り”として有名な売薬さんは、300年も前から全国をまわっています。各家庭にくすりをあずけて、次に訪ねたときに使った分のお金をもらう、“先用後利”という独自のシステムで知られています。くすりのおまけにもっていく紙ふうせんは、子どもたちの楽しみの一つです。



さむい冬は、あたたかい家の中で  
じっくり本を読みましょう!



< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7273